

福井県医師会

だより

第615号 平成24年(2012)9月



水温む 福井市 竹越 忠美

表紙写真説明：水温む

福井市 竹越 忠美

古くから霊峰として白山信仰がある。白山連峰は白山三峰と別山、三の峰を加えて白山五峰ともいわれる。白山の眺望点の一つに木場潟があり、秋酖の萌えるような景観は人々の心の内面に深く迫る美しさがあり、山と水とのコントラストは筆舌に尽くしがたい。

醫 縫 録

患者の価値観の変化

学校保健担当理事 小林 達 治



福井県医師会の理事に就任し一年になります。学校保健を担当する事となりました。この醫縫録の投稿も学校保健関係や、私の専門である眼科領域の事を書こうと思っていました。しかし、何れもあまり興味の湧く内容が無かったものですから(私にとっては興味があっても、醫縫録としてはという意味です)、先日目にとまった新聞の内容から、患者(官僚)と医師の価値観の違いについて書いてみたいと思いました。

医師の価値観では、最善の治療を行い正当な報酬を得るのが原則です。最善の治療が価値であり、報酬は従属するものです。もちろん、報酬に価値を見出してしまう不貞な医師がいないとは言いませんが、価値の主体はあくまでも最善の治療にあります。

官僚の価値観はどうでしょう。診療報酬の改定時期に嫌な思いをさせられる様に、官僚の価値観は制度の維持や、経済性にあります。いかに診療報酬を低く抑えて、その中で最善の医療を強いるか。価値観は費用、あるいは費用を低く抑える事にあり、医療の質は従属です。残念ながら、官僚の価値観を変えることは困難でしょう。

患者の価値観は双方の中間にあるようです。最善の治療は受けたいが、安価であることも重要である、というところでしょうか。疾病が治癒するなら多少の出費には目をつむる、重症化しないうちは出来るだけ安価ですませたいと思っているようです。そこで我々は、これまでの診療報酬改定にあたり、「患者が求めている質の高い医療を維持する為にプラス改定を望む」として官僚に対処してきました。患者の価値観は医療従事者の価値観に近いと思っていた訳です。

新聞の気になった内容とは、「素人は、圧倒的な自信の下、自分たちの浅薄な価値観を社会に押しつけようとする。〈中略〉ありとあらゆる

プロ領域、個人の領域が浸食され、しまいには素人が社会を導こうと決心する。(出典5月4日産経新聞 識者に学ぶ)」と書かれていました。低俗な、あるいは価格が最重要というような価値観が一般化することは、飲食業界や伝統工芸分野では既に顕著に出ています。

町の食堂には、質が高く美味しい所も多いのに、少し割高なのと見栄えが悪い為に敬遠され、たいして美味しくもないのに获得感と見た目だけで流行っているレストラン。綺麗で長く使えるのに、他に安い物があるということで売れなくなり後継者問題が深刻な伝統工芸分野など、低俗で価格主義の価値観が一般化したための弊害が出ています。

医療界はまだその潮流に吞まれてはいないと思いますが、今後、質の高い医療にこそ価値があるとしてきた医師が蔑視され、安価で利便性のみを追求するコンビニ医療を求める患者が主導権を握る時代が来ないとは言いきれません。そうなるからでは、積極的に政治活動を行っても、患者啓蒙活動を行っても価値観の変化は望めないでしょう。

今のうちから、「全国どこに居ても平均的な医療が保証されている、質重視の医療制度」にこそ価値があり、低費用や利便性を最重要とする経済性重視の医療には危険が伴う事を、患者に啓蒙する必要があると思います。

「何を偉そうな事を書いている」とか「そんな事は分かっている」等、お叱りを受けそうな内容になりましたが、一年生理事の独り言として、お許し下さい。